

諦めない心

長久手市立北中学校

二年 藤原 結愛

野球のWBCは、日本の優勝という最高の形で、世界中にたくさん感動を残して終わった。野球が大好きで、普段から野球の試合をよく観ている私も、このWBC期間は泣いたり笑ったり心の底から楽しんだ。大谷翔平選手はもちろん、参加したどの選手にも超一流のプレーや隠れたエピソードがあって感動したが、私は特に村神様こと村上宗隆選手の最後まで諦めない姿に考えさせられた。

村上選手は昨季五十六本のホームランを打った日本最高の四番バッターだ。ところがこのWBCでは、チャンスで村上選手に何度回っても打てない。村上じゃダメだ、世界では通用しない、変えろなどと批判する人もいた。私も村上選手の打席になる度「今度こそは打ってくれる！」という気持ちと「どうせまたダメ！」という、両方の気持ちで観ていた。三振、凡打が続く。他の選手のカバーで試合

には勝っても、村上選手の顔にはいつもの明るさはなく、ずっと沈んでいるように見えた。

負けたら終わりの準決勝メキシコ戦。九回裏、日本は五対四の一点差で負けていたが、ここで最後のチャンスが来た。無死一、二塁で五番バッターとなった村上選手。この試合でも無安打だったが、登場した村上選手には燃えるような迫力が感じられた。ベンチも観客もテレビの前の人もみんな絶対勝つと信じて願っている。「お願い！お願い！」三球目、大きな打球が外野フェンスに当たり、日本は最高の形で勝った。村上選手の努力が結果につながり、私も嬉しさと感動で叫んでいた。

なぜこの試合で勝てたのか？考えた。ひとつめは、自分が努力してきた事を信じて最後まで諦めない、という村上選手自身の強い心があったからだと思う。批判されて悔しくて苦しくても、誰よりも練習することで自分は絶対にできると信じたのだ。ふたつめは、周りの人の村上選手の努力を信じて諦めない心があったからだと思う。最後は代打を出されても仕方のない場面だったが、栗山監督は「ム

ネに任せる」と村上選手を信じて送り出した。誰よりも努力してきたのを知っているからだ。自分そして周りの人が村上選手を信じて諦めない気持ちだが、勝ちを呼んだのだと思う。

私は何かに挑戦する前から「え、無理！」と簡単に言ってしまうことがある。やってみてできなかったら恥ずかしいとか、やりたいけど努力はしたくないとか、そんな情けない理由が多い。自分の限界を自分で決めて、それ以上はやろうとしていなかった。

WBC後、栗山監督が「できるかできないかではない。一度決めたら夢に向かってやるかやらないかなんだ。」と言っていたのを聞いた。私は今年の合唱祭の事を思い出した。私はクラスのピアノ伴奏を引き受けていたが、コロナの影響でしばらく欠席することになってしまった。復帰は合唱祭当日ギリギリで、ずっと家にこもっていて体力的に弾けるか心配だった。クラスにも練習できずに迷惑をかけてしまった。でも「無理！どうしよう？」とは思わなかった。むしろ、何が何でもやるしかない！ピアノがいなくても練習してくれて

いるクラスのために！と思っていた。結果はなんとクラスも私個人も最優秀賞をもらうことができたのだ。そうか、あの時の私はとにかくやるしかなくて、できるできないは関係なかったな。諦めない心は私の中にもクラスみんなの中にもあって、その結果の賞だったんだと今改めて気がついた。

諦めたらそこで試合終了。諦めなければその先に結果がついてくるかもしれない。やると決めたら最後まで努力をしよう。もし夢に向かっている友達がいたら、失敗しても批判するのではなく、努力を認め、成功を信じて応援しよう。大きな夢も、小さな夢も、諦めない心を持つことから始まるのだから。